

子どもの時に、子どもする  
地域の自然環境の保全と環境教育の推進

NPO法人暮らし・つながる森里川海

# 自然の遊び場 馬入水辺の楽校

自然環境の保全  
川の自然と触れ合える場づくり  
子どもたちを野に戻す



Since 2001年4月

# ゴミ捨て場だったところの自然環境を復元しました

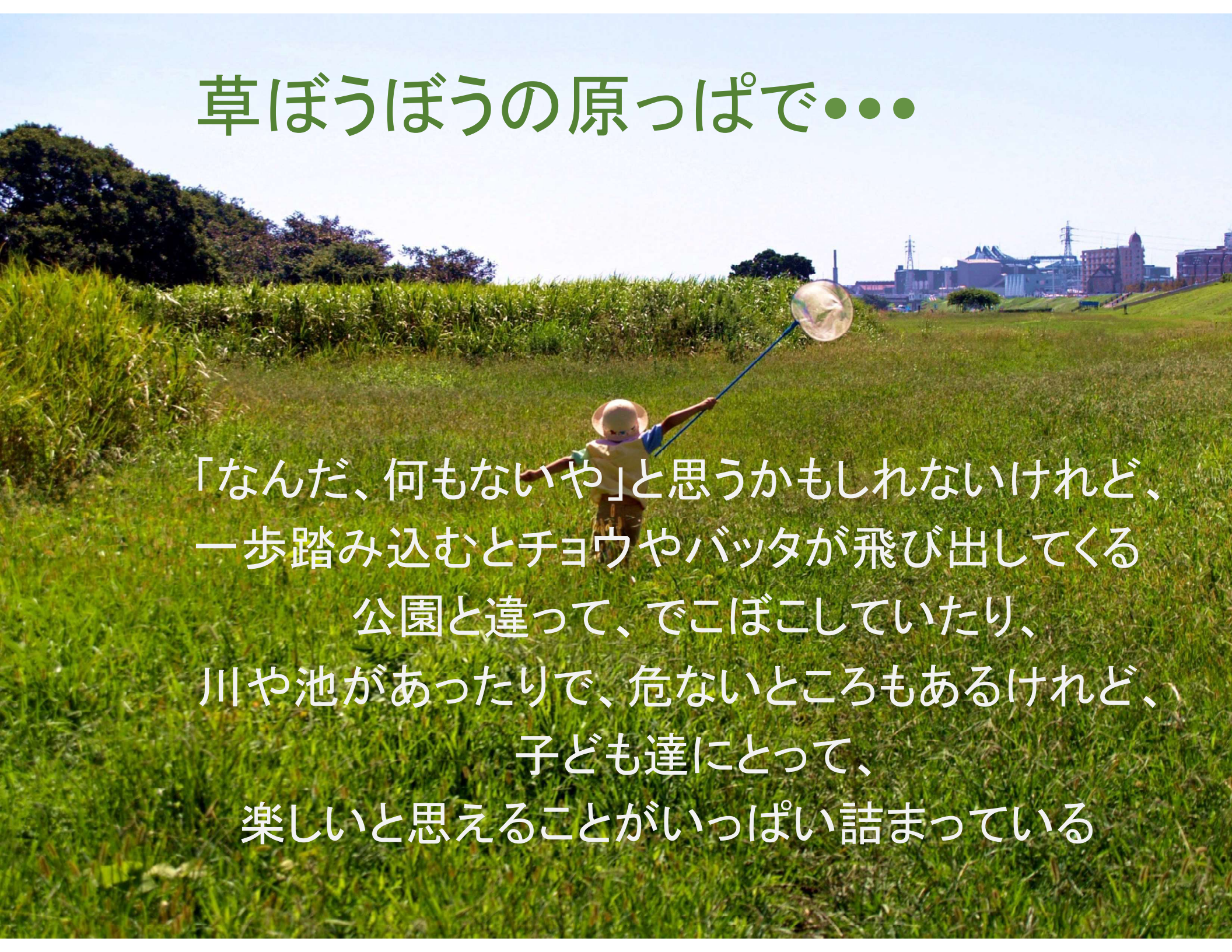
1998年頃



2018年

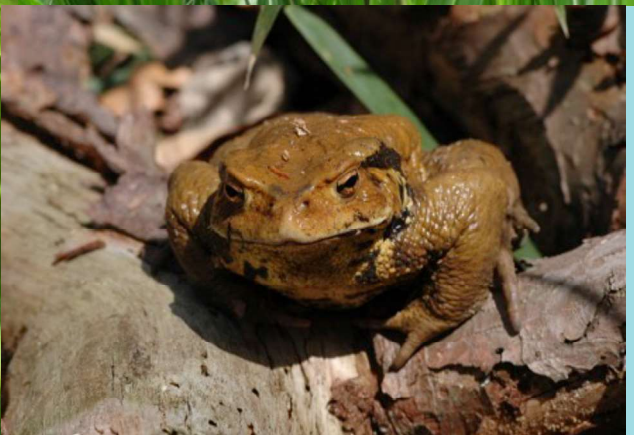


# 草ぼうぼうの原っぱで・・・

A child wearing a straw hat and a light-colored shirt is standing in a field of tall, green grass. The child is holding a long blue stick with a large, iridescent bubble at the end. The background shows a line of trees on the left and a large industrial building with a chimney on the right under a clear blue sky.

「なんだ、何もないや」と思うかもしれないけれど、  
一歩踏み込むとチョウやバッタが飛び出してくる  
公園と違って、でこぼこしていたり、  
川や池があつたりで、危ないところもあるけれど、  
子ども達にとって、  
楽しいと思えることがいっぱい詰まっている

# 生命が躍動しています



相模川で  
第一級の生物のホットスポットです。

絶滅が懸念されているニホンウナギや  
カワアナゴなど、多様な生き物がすん  
でいます。

河口から3キロ上流

## 【主な活動】

馬入水辺の楽校の運営

生物多様性保全活動

環境学習活動の促進

木育活動

相模川いい川づくり

ウナギの棲む川づくり運動

トンボの棲むまちづくり運動

カワラノギク復活プロジェクト

素敵な原っぱづくり

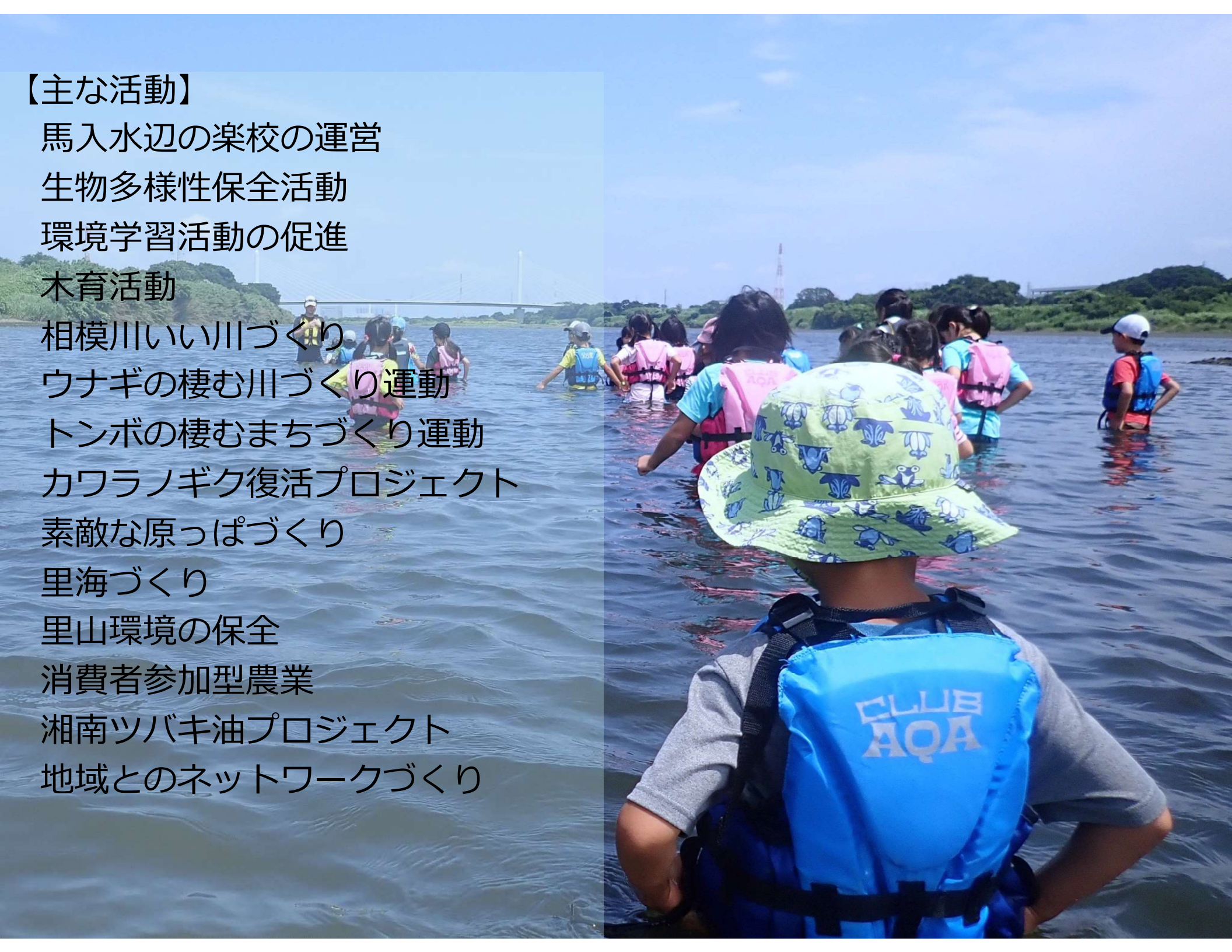
里海づくり

里山環境の保全

消費者参加型農業

湘南ツバキ油プロジェクト

地域とのネットワークづくり



## 心配事

- ・ 子どもたちや都市住民の自然離れが進んでいます。

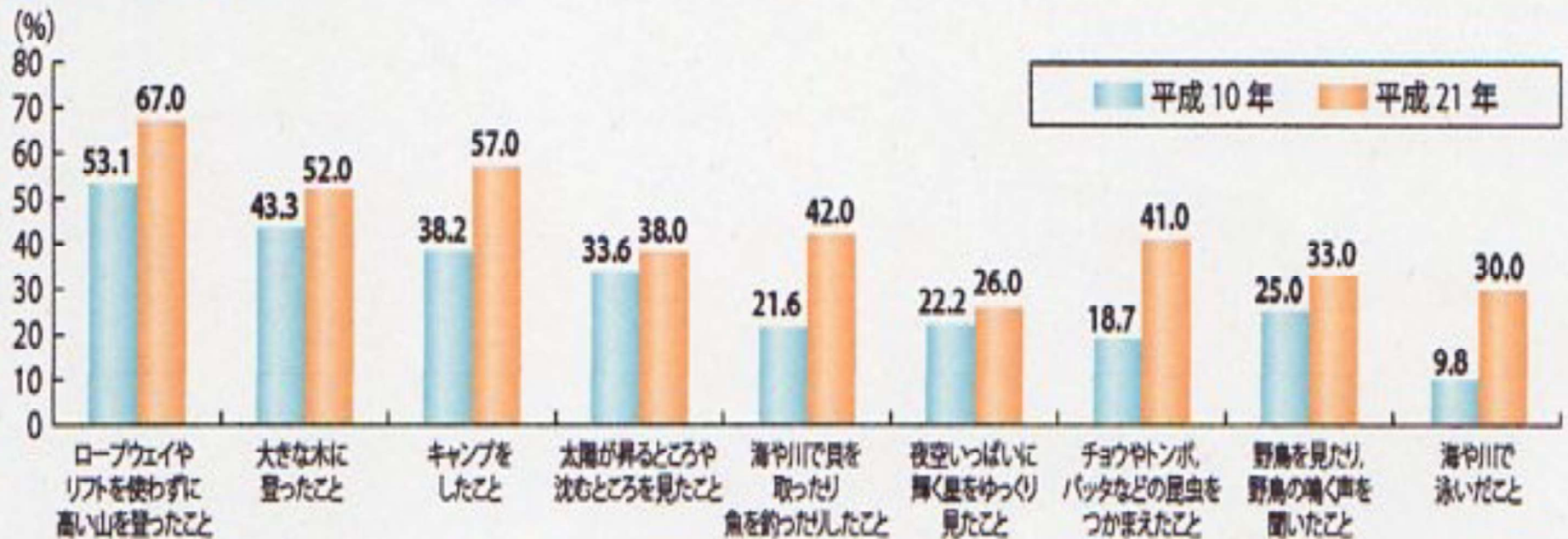
「良い子は川で遊ばない」 ある河川での掲示

- ・ TVゲームの普及
- ・ 危険なところには近寄らない風潮
- ・ 身近な遊び場の消失
- ・ 学校教育の対応遅れ



# 子どもたちが外で遊ばなくなっています

第1-3-32図 自然体験をほとんどしたことがない小・中学生の割合



(出典) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 (2010)「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査 (平成21年度調査)」

そこで・・・

自然体験、環境学習活動に力を入れています



気をつけていること  
自分ごととして取り組めるように！

- ・ 楽しい、ワクワクする取り組み
- ・ お客様扱いしない
- ・ 必要以上にサポートしない
- ・ 準備から片付けまで全員参加